

上子秋生教授を送る

立命館大学政策科学部長 佐藤 満

本年度を持って上子秋生先生が定年退職される。上子先生は1977年に東京大学法学部を卒業され、自治省（現総務省）に入省された。そののち本省と出先を往復しつつ昇進され、2007年3月、総務省自治大学校副校長を最後に、総務省を退官された。その間、出向先としては外務省、兵庫県、熊本県、静岡県、大阪府、公営企業金融公庫（現地方公共団体金融機構）などに勤務された。また、自治省在職中に英国に留学、ケンブリッジ大学より土地経済学修士を取得された。

本学とのご縁は自治省キャリアの最終段階で京都大学法学研究科に派遣され教鞭をとられたところよりできた。退官されたら政策科学部に来ていただくようお願いし、2008年4月より政策科学部教授としてご活躍頂いた。国際派の自治官僚としてのキャリアを生かし、日本の中央地方関係のみならず、国際的な展開についても語っていただく多様な講義を展開していただき、学生の評判はすこぶる高かった。日本語の講義のみならず、CRPS学生を対象とした英語による講義もお持ちいただき、その流暢なクイーンズ・イングリッシュは英語基準の学生・院生にも高評価で受け入れられた。

先生には講義ばかりでなく、学内役職でも多くをお願いした。政策科学部長を2011年より2013年までお努めいただいた後、2014年から2016年まで立命館アジア太平洋大学（APU）副学長をお努めいただいた。その間、所属を本学部からAPUアジア太平洋学部に移されていた。立命館大学政策科学部に復帰ののちは、大学評価室長、ハラスメント防止委員会副委員長を歴任された。

自治省、総務省という役所は、昔風に言えば内務官僚の仕事場であるが、国内行政を総攬するところである。そのなかで国際派であった先生は、まさに鬼に金棒のスーパーエリートであった。本学部にお越しののちも、単に学部で講義をするにとどまらず、その高い能力にふさわしい多くの仕事をこなされてきた。学外も先生の能力に期待するところ大で、外務省独立行政法人評価委員会委員（兼ねてJICA部会、国際交流基金部会、コンプライアンス部会各委員）、京都府懲戒処分審査会委員（その後、参与（服務管理担当）等に名称変更）京都府外国籍府民共生施策懇談会委員（2012年より座長）、京都府私立専修学校・各種学校教材等審査委員会委員（委員長）などを務められ、社会貢献にも努められた。

学内・学外の多くの会議の委員長、座長などをお努めになられたのは、会議の進行がお上手

で、会議の参加者皆に会議に参加している実感を持たせるのがお上手だったせいかと思う。政策科学部の教授会懇親会でも司会進行役はずっと先生にお願いしてきた。

先生はまた、何事についても該博な知識をお持ちであることは言うまでもないが、座談の名手で、そのお話でわれわれをいろいろと楽しませていただいた。特に先生の十八番は鉄道と軍事であった。電車についても旧独軍の装甲戦闘車両についても、われわれはそこまでは知らないという型番とその経年進化について懇切丁寧に、また、面白おかしく語り聞かせていただいた。

先生には、立命館大学名誉教授、政策科学部特任教授として、これまでとは別の視点から政策科学部・政策科学研究科をご指導いただくことになる。本学部教職員・学生を代表して、これまでのご業績をたたえ、また、ご苦勞をねぎらい、政策科学部・研究科の発展にご尽力いただいたことに、感謝の意を表したい。

2020年3月